

私の見たブラジルの農業(第3回)

中南米技術協力専門家(元岡山専門技術員)

田中文哉

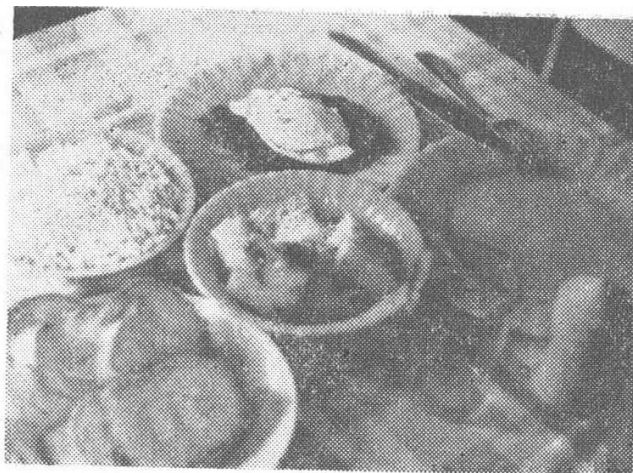
ブラジル人の食事

米は日本人のみが食っているものと思っていたら、それはとんでもない大間違いでした。ブラジルの人々は、極めて貧しい人を除いて誰しも米を主食としているのを見て、実は驚いた次第です。

日本人がブラジルにやってきて、すでに約50年になりますが、その前はこんな米が主食の役を果していませんでした。その昔はマンジョカという芋の澱粉が主食として食べられていたのです。このマンジョカは今ももちろん米と併食していますが、マンジョカの量を少なくして米を多くとる様になり、上流社会では殆んど米ばかり食べているのが実態です。従ってブラジルの農業生産物の中でも、米が最も多く生産されるようになり、その生産を急速にすすめた担い手をはたしたものが日本人の移民ということになります。言葉をかえていえばブラジル人が米を主食として多量に食べる様になったのは、日本移民が来て米を多く生産するようになったからだともいえるわけです。日本人が始めた稲作りが、いまやブラジル人の食生活を根本的に変えてしまったといっても言いすぎではありません。もっともスペイン、ポルトガル、イタリアから移住した移民は、母国で米を日常生活に取り入れていましたので、米に対する認識は十分もっていたわけです。でも、その米を主食として食べるには経済的にも困難な状態にあったわけです。つまり、米は高く彼等の収入では十分には購入できなかったのです。従って、土人や黒人の食っていたマンジョカ澱粉を主食としていたのですが、さて日本人による稲作りがブラジルに拡大普及生産されると共に、またたくまに米を「主食の座」につけた次第です。

つまり「米は今では安くて腹もちがよく、その上味がよい」ので誰れかれの区別をとわず主食となつたと解して間違いありません。

日本人の農業＝稲作りの農業がこのブラジルでも大革命を実現しました。即ち、ブラジルの主食をマ



アルモッサ昼食

ンジョカから米へと革新したのです。ところでこの米は、もちろん日本のいわゆるジャポニカ系の軟らかく、ねばっこいのは異なり、サラッとしてポコポコするインディカ系のものです。いわゆる油でいためるご飯です。

二食主義の食事

さて、ブラジル人はどんな食事をしているのか、代表的な食事の様式についてお話ししよう。

1日の朝の食事はカフェーといって、パンかまたはビスケット類にコーヒーまたは牛乳をまぜて簡単にお茶を飲んでいきます。上流になるとこれに果物がつきます。

昼をアルモッサといって11時頃から13時頃の間をしっかり食べています。夜はジャジタールで18～19時頃です。だから2食主義になっています。農場で労働する人は昼と夜の間、カフェーをとっているそうです。

写真1は私達のたべている、アルモッサ昼食です。パン、米飯、向う側に牛肉のカツの上に玉子の目玉、それにフェジョン豆の汁がつきます。

ブラジルの食事で米飯、フェジョン汁は常食ですが、パンは上流階級のみが食べています。それも主食でなく、副食的役割をもたして食べているのです。従って、米とフェジョン豆とがあれば一応ご飯にな

岡山畜産便り 1965.03

ると思ってさしつかえありません。ところでこのフェジョン豆ですが日本名をゴガツササゲ、トウササゲという、大豆とささげとうずら豆を混合したような豆です。先程ふれたマンヂョカとこのフェジョンの汁とが主食なのです。そのマンヂョカに米がとって代わったのです。

さて、食べ方について簡単に説明しましょう。食べ方は至極下品です。それぞれ皿に盛られて出された一品を自分の皿にすきなだけとってゴチャゴチャにして、水を飲んで、ホークで口にかきこんで食べています。

ブラジル人の食事の概要についておわかりになったと思います。総括して申し上げますと、1日のうち2度だけ食べていますが、それも、米を主食としてフェジョン豆の汁をかけて、それのおまぜをこしらえて水でノドに流しこんで食べるといった状態です。でも最近、これもまた日本人農業の賜ですが、都市近郊ではトマト、キュウリ、バレイショ、チンジャなどが大量に生産されるようになり、いわゆるサラダとしてこれ等の野菜類が彼等の食膳を賑わすようになり、これによって食事の様式をまたまた変えてきました。従ってブラジルの食事を語る場合、日本人の農業生産を無視して語るわけには、参りません。このように彼等の生活においても日本人は大きな役割をはたしてきているわけです。

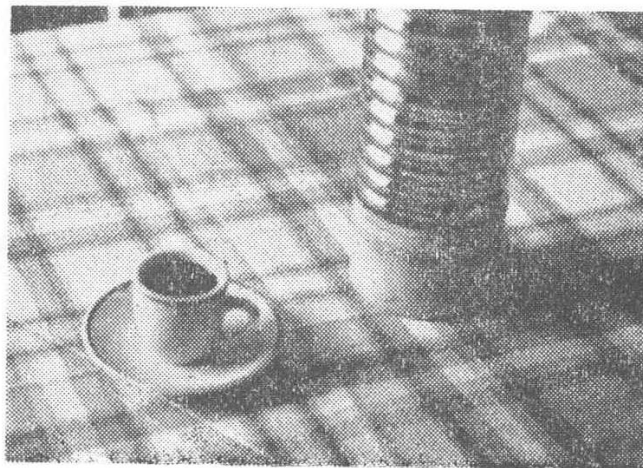
このことは、ブラジルの国の特質（他種民俗の混合体）とともに、彼等の生活様式に大きな変革を与えた日本人農業として再認識するとともに、今後の生活の改革に対する日本人の役割を併せ考えねばならない大きな要点ということが出来ます。

私が驚いたことをもう一度申し上げますと、とにかく「米」を誰もかれも多く食べていることです。

日本人のみが米飯を食っているといつて教えてもらうことを、この際取り消すとともに、今後ブラジルに限らず未開発国または低所得国において（もちろん中南米、アフリカ、東南アジア）米を無視した生活は成り立たなくなるのではないかということです。今からでもおそくありません。米作りの指導、それも熱帯の米作りを研究して、これ等の低所得、未開発国への技術援助を積極的になすべきではない

かと思われてなりません。

次にカフェーの飲み方です。子供の頃ブラジルでは街角や木陰で、真黒いコーヒーをガブガブ飲んでいると聞いたのですが、これはいささか間違いのようです。写真2はこの国のどこでもあるカフェカップとカフェーを入れた魔法瓶です。これでもわかるようにコーヒーカップは極めて小さいもので、一口グッと飲むとなくなります。街角でもカフェー専門の店があり、このカップに「グッと一杯一気に呑んで」元気をつけています。役所でも、他の職場でも、午前、午後各一回この小さなカップにお砂糖をいっぱい入れたコーヒーが出ます。コーヒーに明け、コーヒーに暮れることに間違いありませんが、そのカップの可愛らしいにはおどろきました。



コーヒーセット